

イザヤ書 43 : 1~7

マタイによる福音書 28 : 1~20

「いつもあなたがたと共にいる」

【招詞】 イザヤ書 42 : 9~10a

【讚美歌】 27 「父、子、聖霊の」

【詩編交読】 詩編 32 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 51 「愛するイエスよ」

【祈祷】

【聖書】 イザヤ書 43 : 1~7

マタイによる福音書 28 : 1~20

【説教】 「いつもあなたがたと共にいる」

<実現する御言葉>

天の父なる神さまは、遠い遠い旧約聖書の時代。イザヤという預言者を通して、苦しみの中を歩んでいた人々に、約束の御言葉を語られました。

43 : 5 「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」

神さまの御言葉は真実であり、神さまの御言葉は、必ず実現します。

天地をお造りになったとき、「光あれ」と言われれば、そこに「光」を造り出し、「光」を存在せしめることがお出来になった。そのような、力ある神さまの御言葉です。

神さまは、その御言葉をもって、人々に語りかけられたのです。

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。」

…そしてその御言葉は、今から約 2000 年前、神の御子イエスさまにおいて実現しました。

今日読まれた聖書には、わたしたちを罪から救うために、十字架に架かって死なれた神の御子イエスさまが、葬られた墓の中から、復活させられた。その場面が語られています。

復活されたイエスさまは、弟子たちとガリラヤの地で再び出会い、彼らに語りかけられました。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。

そして、イエスさまは復活し、今も生きて、天におられるお方ですから。その御言葉は、時代を超えて、場所を超えて、今ここにいるわたしたちにも、語りかけられているのです。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。

…この、神の御子イエスさまの、約束の御言葉。必ず実現する御言葉。この御言葉を、今日は共に、聞きたいと思います。

## <十字架と復活>

さて聖書には、今日読まれた、マタイによる福音書を始め、他の福音書にも、十字架で死なれたイエスさまが、墓に葬られ、3日後には、その墓が空っぽになっていたこと。

そして、婦人たち、弟子たちをはじめ、多くの人々が、復活して生きておられるイエスさまと出会ったこと。その証言が、それぞれしっかりと記録されています。

この復活の出来事は、世の常識ではあり得ないことです。多くの人にとって、当然、信じがたいことに違いありません。

しかし教会は、証言され、聖書に記された、イエスさまの十字架の出来事と、死者の中からの復活の出来事こそが。旧約聖書の時代から語られてきた、神さまの、救いの約束の御言葉の、実現である。この出来事こそが、わたしたちを救うために為された、神さまの真実な出来事であると、信じてきたのです。

…イエスさまの十字架の出来事は。2000 年前に、一人のイエスという人が、エルサレムで、十字架に架けられて死んだ。ただそれだけのことならば、キリスト教ではなくても、誰もかも、そういうこともあったのだろうな、と受け入れられると思います。

でもそれが。神の御子が、罪人であるわたしたち人間に、罪の赦しを与えるために、神の身分を捨てて、まことの人となって世に来られ、わたしたちの代わりに、罪の審きを受けて、十字架に架かって死んでくださった。そしてこの方を、神の子であり、救い主であると信じるすべての人が。罪を赦され、滅びの死を免れ、神さまと共に生きる永遠の命をいただき、終わりの日には、復活することができる。そのための出来事だったのだ。

そうなる…これは、とても信じがたい出来事だと、言わざるを得ないのです。

…なぜ、神の御子である方が、身を低くして人間になり、神さまに造られた被造物にすぎない人間を罪と死から救うために、自ら命を捨てなければならないのでしょうか。

なぜ、神の御子が、罪人のために、わたしたちのために、傷つけられ、罵られ、辱められ、十字架の上で、叫んで死ななければならなかったのでしょうか。

この、神の御子イエスさまの十字架の出来事で、明らかにされていることの一つは。

わたしたちが、神さまに対して犯している罪は。実は、神の御子の命を償いとしなければ、赦していただけない程に、深く、重く、深刻であるということです。罪は、わたしたちを神さまから引き離し、滅びへと導きます。本当は、わたしたちは、自分では抱えきれない罪を、償い切れない罪を、神さまに対して負っているのです。

しかしまた、同時に示されていることは。天の父なる神さまは、わたしたちを、そのような罪から救うために、ご自分の御子イエスさまの命さえ、惜しまず与えてくださった、ということです。それほどに、父なる神さまは、造られたわたしたち一人一人を、愛しておられるということです。

今日のイザヤ書には、神さまのわたしたちに対する思いが語られています。特に 43 : 4。

「わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする。」

わたしたち一人一人が、神さまの目に、値高く、尊い存在である。神さまは、わたしたち一人一人を愛している。そのゆえに、神さまは、わたしの身代わりの人を与え、国々を、わたしの魂の代わりにする、とまで言われるのです。

イザヤ 43：1 にもこうありました。「ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」

だから、父なる神さまは、「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」と語りかけてくださったのです。そして、御言葉を実現するために、御子イエスさまを、わたしたちの身代わりとして与えられたのです。

イエスさまは、御言葉の通り、ご自分の十字架の死によって、わたしたち一人一人の罪を、贖ってくださいました。わたしたちを罪から解放し、神さまから離れて滅びていくわたしたちを、神さまの御許に取り戻してくださったのです。

それゆえに、もはや、わたしたちは、罪に捕らわれて、神さまから離されることはない。死んで、滅びていくことはない。神さまから見捨てられることは、決してないのです。

だから、神さまの救いの約束の御言葉が、イエスさまの十字架において、確かに実現したことを知らせるために。父なる神さまは、御子イエスさまを、神さまの御力によって、死者の中から復活させられたのです。

あの十字架で叫ばれ、死なれたお方が、まことに神の御子であったこと。

あのイエスさまの十字架の死は、ただの一人の人間の死ではなく。神さまの愛によって、すべての人間の罪を贖い、すべての人間を滅びの死から救い、神さまと共に生きる者とするための、神の御子の死であったこと。

わたしたちは、そのことを、イエスさまの復活において、知らされたのです。

神の御子イエスさまの、十字架と復活。

これは、わたしたちを罪と死から救うために成し遂げられた、神さまの救いの出来事であり。旧約聖書の御言葉の、確かな実現なのです。

<弟子たちと、復活のイエスさまとの出会い>

さて、マタイによる福音書の 26 章では、イエスさまが、十字架に架けられる直前に、弟子たちに、ご自分が死ななければならないこと。そして復活なさること。そしてその後、ガリラヤの地へ行くということを、告げておられました (26：31～32)。

そして、イエスさまの十字架の死と葬りの後。11 人の弟子たちは、先に墓へ行った婦人たちから、イエスさまのご遺体がなく、天使が「ガリラヤへ行くように」告げたこと。さらには、婦人たちが、復活なさったイエスさま御自身と出会って、「弟子たちにガリラヤに行くように言いなさい」と言われたことを聞いたのです。

11 人の弟子たちは、言われた通りに、ガリラヤへ行き、約束の山へ登りました。

そして、そこで、まことに、十字架の死からよみがえられたイエスさまと、再びお会いしたのです。

弟子たちは 11 人とありますが、当初は 12 人でした。しかし、イエスさまを裏切って、ユダヤ人の指導者に引き渡したユダは、もうここにはおりません。

しかし、残りの 11 人の弟子たちも、ユダのように脱落しなかったから、弟子としてまともだったから、復活のイエスさまにお会いできた、ということではありませんでした。

はっきり言って、11 人の弟子たちも、全員、脱落者だったのです。

彼らは、イエスさまが十字架に架けられるときには、全員、イエスさまを見捨て、逃げ去りました。一番弟子のペトロでさえ、イエスさまとの関係を、3 度も否定したのです。

弟子たちは、これまでイエスさまに天の国の教えを受け、多くの奇跡を目撃し、イエスさまを救い主だと、神の子だと、告白してもしました。

でも、イエスさまが捕らえられ、裁判にかけられ、死刑になる。その恐れや不安を前に、信じる思いは、簡単に吹き飛んでしまった。イエスさまに従う覚悟や強さなど、どこにもなかった。弟子として最後まで従い抜いた者は、誰一人いなかったのです。

彼らだって、本当は、従って行きたかったのだと思います。

それなのに、イエスさまから逃げ出してしまった。どれほど自分の弱さが、情けなかったのでしょうか。どれほど恥ずかしかったのでしょうか。どれほど後悔したのでしょうか。

でも、イエスさまは十字架で殺されてしまった。もう取り返しがつかない。

彼らは、これからどうしたら良いのか、まったく分からずにいたと思うのです。

しかしそこに、婦人たちから、イエスさま復活の知らせです。

確かにイエスさまは、ご自分が殺され、また復活すると予告されていました。でも、その知らせを受けるまで、弟子たちは誰一人、意味が分かっていなかったのだと思います。

それに、どうでしょうか。復活が本当だったら、あまりに嬉しい知らせです。

でも、弟子たちは、イエスさまに合わせる顔が、ないと思ったんじゃないのでしょうか。見捨てて、逃げ出して、裏切った方に、どの面を下げてお会いできるのか。赦していただけるのか。断罪されるのか。弟子たちは、複雑な心境だったのではないかと思うのです。

でも、約束の場所へ、ガリラヤの山へ来るようにと、イエスさまが、弟子たちに言うておられるのです。イエスさまの方から、弟子たちを招いておられるのです。

だから 11 人の弟子たちは、復活のイエスさまの御言葉に、そのお招きに、従ったのです。マタイ福音書 28：16～17 には、その時の場面がこう語られています。

「さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。」

<近寄って来るイエスさま>

こうして弟子たちは、復活のイエスさまに、お会いしました。そして、「ひれ伏した」とあります。この「ひれ伏す」という言葉は、「礼拝する」という意味の言葉です。

十字架の御業を成し遂げ、復活なされた、神の御子イエスさまとの出会いに、弟子たちはひれ伏さずにはられませんでしたが。イエスさまを礼拝せずにはられませんでしたが。

しかし、興味深いのは、弟子たちの中には、イエスさまにひれ伏し、礼拝をしながら、「疑う者もいた」ということです。聖書は何と正直に、人の姿や心を描くのでしょうか。

弟子たちは、全員が心から悔い改めて、完全にイエスさまを受け入れて、全身全霊で礼拝をささげたのではなかったのです。

イエスさまの御前に出て、神さまの御前に出て、ひれ伏し、礼拝をしながら。心のどこかに、疑いを抱いている。不信感をもっている。距離感がある。

この方は、本当に、あのイエスさまだろうか。本当に、死者の中から復活したのだろうか。この方は、見捨て、逃げ出し、御許から離れ去ってしまったわたしを、赦してくださるのだろうか。

…最も大きな疑いは、イエスさまが、神さまが、こんなに罪深いわたしを、自ら離れ去ったわたしを、赦し、愛してくださるだろうか。そのことだったかも知れません。

しかし、神の御子イエスさまは、まさにそのような、弟子たちの、わたしたちの弱さと罪を、すべて担うためにこそ、ご自分の命を捨てて、十字架に架かってくださったのです。

イエスさまは、わたしたちを、弱さごと、罪ごと、受け入れてくださり。その最も汚れた部分を、引き取ってくださいます。

そして、ご自分の良いものすべてを、清さを、正しさを、命を、愛を、わたしたちに与えてくださるのです。

イエスさまが、十字架でお示しくくださったのは、わたしたちの弱さも、罪も、死も、すべてを覆い尽くしてくださる、神さまのはかり知れない愛だったのです。

だから、18節には「イエスは、近寄って来て言われた」とあります。「イエスは、近寄って来た」。

弟子たちは、イエスさまにお会いして、ひれ伏し、礼拝ながらも。恐れからか、疑いからか、うしろめたさからか、イエスさまに近づくことが出来なかったのです。

でも、イエスさまの方から、弟子たちに近寄って来られます。イエスさまの方から、側に来てくださいます。わたしたちから、近づくことが出来なくても。すべてを愛で覆ってくださるイエスさまが、自ら来てくださり、共にいてくださるのです。

#### <ご命令>

そして、イエスさまは、弟子たちに語りかけられました。18～19節。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。」

わたしたちの罪の贖いを成し遂げ、死の力を打ち破り、復活なされたイエスさまは、今や、天と地の一切の権能を授かっておられます。

それはもはや、天も、地も、見えるものも、見えないものも、すべてのものが、イエスさまの救いの恵みのご支配の許にあるということです。イエスさまにおいて実現した、神さまの愛が、天も地も、支配しているのだ、ということです。

だから、わたしたちは、十字架のイエスさまの御許で、罪を赦していただける。

復活のイエスさまの御許で、たとえこの世で死んでも、終わりの日に復活し、永遠に神さまと共にいることができる。

もはや、罪も、死も、わたしたちを支配しておらず、わたしたちを神さまから引き離すものは何もない、ということなのです。

でも、わたしたちは思うのではないのでしょうか。それなら、どうしてこの世に、争いや戦争があるのだろうか。どうしてわたしたちは、傷つけ合うばかりで、愛し合うことが出来ないのだろうか。どうして、残酷なことや、分断や、格差があるのだろうか。

…それは、イエスさまの救いの出来事を、神さまがお示しくださった愛のご支配を、まだ、すべての者が信じて、受け入れたのではないからです。罪によって神さまから離れたままで、お招きに応えていない者が、まだ大勢いるからです。

でも、神さまは、すべての一人一人を、値高い、尊い者として、愛しておられます。

一人一人のために、御子イエスさまは、その命を惜しまずに捨てられます。

だからこそ、イエスさまは、弟子たちに命じられたのです。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」

イエスさまの弟子にする。イエスさまの弟子になる。それはつまり、イエスさまの十字架と復活の御業による救いを信じ、罪を赦され、新しい命を与えられ、イエスさまに従うようになるということです。イエスさまと共に生きる者になるということです。

そのためにイエスさまは、救いの「しるし」の「洗礼」を、父と子と聖霊の名によって授けることを命じられました。

洗礼を受けた者は、皆、イエスさまの弟子となるのです。

こうして、イエスさまのご命令の御言葉を受けた、11人の弟子たちは、世界各地へ、イエスさまの十字架と復活の救いを宣べ伝えていきました。そして、信じた者に洗礼を授け、そこにたくさんのイエスさまを信じる者たちの群れ、「教会」が誕生していったのです。

#### <約束の御言葉>

あの、イエスさまの十字架の時に裏切った弟子たちは。あの、復活のイエスさまと出会っても疑っていた弟子たちは。イエスさまのご命令に従って、それこそ、全身全霊を献げて、イエスさまのために働く者となりました。とても不思議な、変化です。

でもそれは、弟子たちが反省をして、覚悟を新たに、禪を締め直して、再出発したからではありません。

復活のイエスさまが、弟子たちを変えたのです。約束の御言葉が、弟子たちに勇気を与えたのです。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

弟子たちは、神さまの御言葉が、必ず実現するということを、身をもって、十分に、思い知らされたのです。

旧約聖書において語られた、神さまの救いの約束の御言葉は。イエスさまによって、確かに実現しました。

イエスさまの御言葉も、すべて語られた通りになりました。すべての約束は実現し、すべての御業は成し遂げられました。

そうであるなら。イエスさまの「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。この御言葉も、まことに真実であり、確かであり、実現するに違いないのです。

それは、信じる、信じないというよりも。もはや、自分が救われた事実によって。イエスさまにいただいた出来事によって、得ることが出来る、確信なのです。

この御言葉の確信の許に。弟子たちは、イエスさまの罪の赦しの中で。神さまの愛の中で。聖霊の導きの中で。心も体も喜んで献げ、大胆に、恐れることなく、いただいた救いの恵みを、世界中に知らせていったのです。

<わたしたちもまた>

そして、その弟子たちの働きは、今ここにある、わたしたちの教会に至りました。

ここに、イエスさまを信じて、洗礼を授けられ、弟子とされた者たちの群れがある。礼拝へ招かれ、それに応えて、集っている者たちがいる。

これはまさに、弟子たちに命じられたイエスさまの御言葉が、ここで、実現していることの証しに他なりません。

そして、宮崎中部教会が 100 年も続いて、今なおここで、礼拝する群れとして存在しているのは。いつもここに、生きておられる復活のイエスさまが、おられるから。まさに今も、共におられるからなのです。

「わたしは、いつもあなたがたと共にいる。」

この御言葉は、ここで実現し、またこれからも、実現し続けていくのです。

ですから、この礼拝は。イエスさまを信じる者の群れである教会は。ここに招かれたわたしたちは。復活のイエスさまが、確かに生きて、働かれ、共にいてくださることの、目に見える「しるし」であり。イエスさまがここにおられる証拠である、と言えるのです。

…しかし、わたしたち一人一人もまた、11 人の弟子たちのように、ここでひれ伏しながら。復活のイエスさまの御前に出て、礼拝をしながら。

それでもなお、救いの恵みを疑い、復活の約束を疑い、神さまの愛を疑ってしまうことが、あるかも知れません。

苦しみや悩みに襲われる時、自分の罪を見つめ、自分の心の思いに捕らわれ、イエスさまに近付こうとしないことがあるかも知れません。

教会全体の歩みとしても、つまづくこと、弱ってしまうこと、苦難を経験することが、あるかも知れません。

しかし、イエスさまは、罪の中にある者に。疑いの心を抱いている者に。弱さや、苦しみに打ちひしがれている者に。イエスさまの方から近寄って、共にいてくださるお方です。

そして、天と地の権能をもって、罪と死を支配するその御力で、御言葉を必ず実現し、その恵みを、必ずわたしたちに見させてくださるお方です。

ですから、わたしたちは、イエスさまの御言葉に確信をもって、すべてを委ね、すべてを祈り求め、すべてをより頼んでいきたいのです。

そして安心して、復活のイエスさまと共に、終わりの日まで、歩んでまいりましょう。

最後に、必ず実現する、復活の主の御言葉を聞いて、終わります。

「イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

#### 【お祈り】 天の父なる神さま

わたしたちの弱さや、疑い深さや、深刻な罪にも関わらず。あなたはお造りになったわたしたちを、値高く、尊いと言ひ。御子イエスさまの命も惜しまないほどに愛してくださいました。あなたの愛の御言葉を、イエスさまが、十字架と復活によって実現してください、御言葉の通り、いつも共にいてくださいますことを、心から感謝いたします。

どうか、わたしたちが、イエスさまを心から礼拝し、あなたの御言葉の確かさを信じ、あなたの御言葉にこそより頼んで、歩いていくことが出来ますように。

そして世の終わりまで、御言葉の通り、いつも共にいてください。

愛するイエスさまの御名によって、お祈りいたします。アーメン

#### 【讚美歌】 90 「主よ、来たり、祝したまえ」

#### 【信仰告白】 ニカイア信条

#### 【十戒】 【献金】 65-1 「今そなえる」

#### 【主の祈り】 【祈祷】

#### 【讚美歌】 28 「み栄あれや」

#### 【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン